

令和6年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営計画)
【中期経営目標】 ○ 多様な生徒一人一人を大切にし、誰一人取り残すことなく、能力を最大限に伸ばし、進路を決めて卒業させる。 ○ 伝統校としての歴史を継承しながらも地域の状況や社会の変化を踏まえた教育活動を展開し、地域から愛され生徒一人一人が輝ける学校を目指す。 1 地域との連携を深め、学習活動を公開するなど、地域から信頼される学校づくりを推進する。 2 あらゆる教育活動をととして、規範意識とコミュニケーション能力の向上を図り、自ら主体的に考え、正しい選択ができる生徒を育てる。 3 自尊感情、自己有用感を高めるとともに、他者を思いやる心を育てる。また、安心・安全で充実した教育環境を整備する。 4 自己理解を深めさせるとともに、目的意識を高めさせ、自らの進路を主体的に切り拓く能力や、責任ある行動力を身につけさせる。 5 学習環境の整備や教職員の資質向上に努める。 6 新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の充実と、特色ある教育活動を展開する。 7 ICT活用をさらに促進し、「個別最適な学び」「協働的な学び」が可能な学習環境の構築を推進する。	1 コロナ明けとなった令和5年度は、文化祭・体育祭、研修旅行を初めとした学校行事を全て予定どおりに実施することができた。特に全校開催で実施した文化祭・体育祭は、生徒が木津高生としての一体感や感動を味わえるものとなり、学校行事の教育的意義を再認識できるものであった。 2 普通科探究エリアの総合的な探究の時間の取組が本格的に稼働し、外部講師による授業や、フィールドワークをととした地域連携等、各コースの特色を活かした探究活動を行った。また、年度末には探究活動成果発表会を開催し、1年間の活動内容をコース間で交流をすることができた。 3 システム園芸科、情報企画科の取組も、概ねコロナ禍以前の状況に戻り、地域での販売実習や中学校でのビジネスマナー講座等、専門学科の特色を活かした取組をととして地域連携・校種間連携を推進することができた。 4 卒業生の進路状況は、四年制大学へ進学する生徒の割合の上昇、特進エリア生徒の国公立大学合格、学校紹介による就職希望者の全員内定等、系統的できめ細やかな進路指導の成果が感じられるものであった。また、卒業時の進路未決定者の割合が昨年度比で大幅に低下した。 5 部活動加入率は、56.2%で、運動部、文化部とも活動が活性化している。また、部活動部員が各学校行事における運営補助や準備・撤収に積極的に携わっており、学校全体に好影響を及ぼしている。 6 木津高校創立125周年を見据えたプロジェクト会議を立ち上げ、教育委員会から示されたスクールミッションに基づいたスクールポリシーの検討及び策定を行った。 7 新学習指導要領への対応、観点別評価の実施、BYOD導入については、教科主任会議やICT推進会議を軸として教科間、教職員間の共通理解を図り、大きな混乱なく推進することができた。 8 授業改善に向けた取組の一環として、英語科が京都八幡高校と連携し、年2回の授業交流会を実施した。	○ スクールミッション及びスクールポリシーに基づき、以下の取組を重点として推進する。 1 創立123年、木津高校の歴史と伝統、建学の精神を継承しつつ、新時代を見据えて、3つの学科において、「主体的に学び考える力」「多様な人とつながる力」「新たな価値を生み出す力」の育成と充実を図る。 2 各学科の特長及び専門性を活かしながら探究活動や学習に取り組み、確かな学力や専門的な知識・技能に裏付けられた、自らの進路を切り拓く力を身に付けさせる。また、ICT機器の積極的な活用を推進し、「個別最適な学び」「協働的な学び」の構築を図る。 3 規律ある学校生活と基本的な生活習慣の確立を図る指導を行うとともに、特別な教育的支援を要する生徒に対して、組織的に適切な支援を行う。また、教育活動にユニバーサルデザインの考え方を導入し、生徒が安心して過ごせる教育環境の整備を推進する。 4 粘り強い学習指導を行い、原留・中退を限りなく0に近づけるため、さらなる指導の充実を図る。 5 多様性や人権を尊重する意識を持ち、信頼で結ばれ成長し合う人間関係が構築できる学級経営や学校づくりを行う。 6 地域等と連携した教育活動やボランティア活動を積極的に行い、自己有用感と誇りを高める。 7 危機管理の徹底及び安心・安全な環境づくりを推進する。また、生徒が自他の生命を大切に、健康で安全な学校生活を送ることができるよう、健康安全教育および環境美化教育の充実を図り、施設設備のさらなる整備に努める。 8 学校・家庭・地域がコミュニティとして、それぞれの強みを活かしてつながる教育を推進する。 9 選ばれる学校づくりのために、広報活動をさらに充実させ、地域・中学生及びその保護者に向け、木津高校の魅力を発信する取組を推進する。 10 不断の授業改善に努めるとともに、教職員のスキルアップのため、研修の充実を図る。

分野	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
教務部	修学保障	原級留置・中途退学者数を限りなくゼロに近づけるよう全校体制で指導を行う。	校務システムにおける日々入力を安定的に運用し、欠席過多生徒の情報共有を担任と教科担当間でより緊密にする。また、欠席過多生徒・成績不振の生徒に対する指導について学年部のみではなく、各教科担当との連携を密にし、昨年度の人数より減少を目指す。	3	3	3	・日々入力を安定的に運用し、生徒の欠席状況の把握を的確に行えるようにした。また、「K-Alert」を全学期中間考査後に配付し、生徒の成績・各教科の欠席時数を全教員に知らせ、不振の改善を図った。生徒の異動状況は昨年度の同時期（1月末）よりも3倍に増加している。コロナ禍の状況で中学時代を過ごし、全日制課程のシステムに合わない生徒の入学が増えていることも一因ではないかと考えられる。今後は、関係分掌と連携し改善の方法を模索していきたい。 ・公開・研究授業週間及び授業アンケートを年2回実施することができた。公開・研究授業週間では、タブレット端末を活用した授業を積極的に公開し、お互いの授業内容の交流を図ることができた。また、授業アンケートは、各教科主任による分析を行い、授業改善につなげることができた。数科目実施できなかったのが、来年度への課題である。 ・完成年度を迎えた全学年対象の観点別学習評価は、学期ごとの教科主任会議で評価の在り方を検討し、定着することができた。 ・図書委員会において、生徒主体の取組計画を作成できた。Classiを活用して「図書館だより」「新着図書案内」を発刊した。
			各学期の中間考査後、K-Alertを全教職員に配付することや、各学期末においても成績会議を開催することで、各生徒の成績状況の情報共有を図るとともに、成績不振生徒に対する丁寧な学習指導に力を入れる。	3			
			「授業を大切にしよう」を活用し、課題を抱える生徒への面談やアプローチの仕方について、より効果的な実施の仕方、時期を検討する。	3			
	学習指導	ICTを積極的に活用した授業を推進し、「個別最適な学び」「協同的な学び」の構築を推進する。また、授業規律を確保するとともに、授業改善を推進し生徒の学力向上を図る。	これまでのICT活用のノウハウをいかし、完成年度をむかえたタブレット端末導入の推進やClassiをより効果的に活用し、授業改善につながる取組（公開・研究授業週間、授業アンケート等）を効果的に実施し、授業改善を通じて学力向上につなげる。	3	3		
			学力向上につながる取組を他分掌と連携して効果的に実施する。	3			
	学校運営	新学習指導要領の趣旨を踏まえた「指導と評価の一体化」及び新教育課程の適切な実施を目指す。	新学習指導要領完成年度に向け木津高校としての「指導と評価の一体化」をさらに推進し、生徒の学力についてより適切な評価を行い、通知票・指導要録に反映させる。また、新教育課程の導入を適切に行い、年次進行の完成を目指していく。	3	3		
	図書館活動	図書館での活動を通して、生徒の学力・人間力の向上を目指し、社会で通用する能力を身につけさせる。	生徒及び教職員に図書館の利用を促進する。	3	3		
			図書委員会の活動に生徒たちを積極的、主体的に取り組ませる。Classiを活用するなど、有効な広報活動を行う。	3			
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。	社会の一員としての自覚を育てるために、定められた時間に登校できるよう毎朝校門にて、あいさつ運動とともに遅刻防止指導を行う。週に1度程度、JR木津駅周辺を巡回し、登校指導を行う。	2	3	3	・毎朝、校門での指導を行うことが出来た。週に一度までではないが、JR木津駅・木津高校周辺へ見回り指導を行った。 ・身だしなみ指導で道徳教材を使用しての指導を導入し、生徒とやりとりをしながら指導することができた。今後は、生徒指導部以外の先生にも協力してもらい、様々な角度から話ができる体制作りを行いたい。 ・保護者には必要に応じて説明するとともに、外部関係機関と連携し、必要な指導をすることができた。 ・いじめアンケートなどを基に、速やかな情報共有を行い、生徒の様子などをみることができた。
			登下校時を含め、学校生活全体を通じて、身だしなみが整った状態で過ごすことができるよう統一した指導を行う。また、身だしなみ指導を通して、生徒の内面にせまる指導を行う。	3			
			携帯電話やスマートフォン、タブレット端末のルールを教え、使用ルールを遵守するよう、統一した指導を行う。	3			
			保護者や地域、関係機関と連携し、安心・安全な学校生活の構築を図る。	3			
			保護者や外部関係機関と連携を密にし、生徒の安心・安全に留意した指導を行う。	3			

			いじめの早期発見・早期解決といじめを許さない心の育成指導を行う。	3	3		・学校行事などの特別活動を通じ、他者と協力しながら物事を達成したり、人権学習を通じ、他者を思いやる心を育てたりすることができた。
	特別活動	規律ある集団生活の中で、生き生きとした教育活動を推進する。	生徒会、クラス委員、部活動の校内外での奉仕活動、人権学習等を通して、地域への連携を深めるとともに他者を思いやる心を育てる。	3			
			部活動に参加しやすい環境をつくり、自主性・協調性の向上を図り、達成感をえられるよう指導する。	3	3		
キャリア教育推進部	進路指導	希望進路実現のために就職指導、進学指導体制を充実させる。	就職希望者に対する指導については学年との連携を密にし、希望者全員の内定を得る。	4			・就職指導は学年部と連携し、個に応じた丁寧な指導を行うことで、内定率 100%を早期に達成できた。支援を要する生徒についても、保健部・ハローワーク等と連携を取り、適切な指導をすることができた。 ・特進エリアでは、各教科、担任と連携を密に図り、特進会議等を通して生徒の状況を把握しながら指導を進めることができた。 ・進路シラバスを基に、各学年に応じた進路学習を系統立てて実施することができた。事前事後学習を更に深めることが今後の課題である。
			進学を目指す特進エリアでは、担任を中心に各学年及び各教科と連携しながら目的意識を高めさせ、「主体的に学び考える力」の育成を促すことで、生徒のさらなる学力の向上と進路実現を図る。	3	3		
			進路シラバス～守破離～を基にした系統的な進路学習を各学年と連携して実施するとともに、生徒が主体的に進路選択できるよう適切な情報提供を行い、希望進路実現を図る。	3		3	
	教育企画	本校の教育活動に興味・関心を持つ中学生に本校の魅力を伝え、特に木津川市、相楽エリアにおいて選ばれる学校を目指す。	各学科、分掌、部活動と連携して、学校説明会、学校公開、授業体験の実施により本校の魅力を伝える。また中学校訪問や中学生向けの進路ガイダンスを積極的に行う。	3			
			ホームページとInstagramを積極的に活用した情報発信を行う。また PTA と連携し、会報などを利用し本校の教育活動を保護者に向けて適正に発信する。	3	3		・学校説明会等の実施については、多くの関係分掌や教科、部活動等と連携して実施できており、参加者からも好評を得た。 ・ホームページおよびInstagramについては、学校説明会関係や学校行事、各学科の取り組み等を中心に、適切に記事の更新を行った。 ・探究活動の推進と普通科の特色化については、各教科担当者と連携しながら進めているが、特に指導内容の体系化が十分に図られていないことが大きな課題である。次年度以降、さらに教員間の連携を深めながら、改善につなげる必要がある。
			各教科担当と連携して校内の探究活動を推進し、普通科の特色化を進める。	3			
保健部	健康・安全	清掃活動の充実を図り、他を思いやる心を育む。	事務部と連携し、清掃道具の整備と充実に努める。清掃の仕方を明確にし、生徒が自ら主体的に清掃活動に取り組みやすい環境を整える。	3	3		・清掃の仕方を作成して配布し、周知徹底した。 ・清掃範囲を点検し、事務部と連携して用具の購入を行った。 ・各種健診はほぼ全員が受検した。 ・学校適応推進会議を定期的に開催し、適切な配慮を行った。
		保健活動を通して、生徒の健康・安全を守るとともに将来に繋がる取組を行う。	各種健診を実施し、保健活動を充実させる。環境整備の点検を実施する。	3	3		

		支援を要する生徒が自己理解を深め、自ら主体的に進路を切り開く能力を育てる。	SCやSSWを交えて学校適応推進会議や特別支援校内会議を開催し、個別の指導計画を作成し、必要な支援や配慮を行う。 特別な支援を要する生徒に対して、自分に合ったスタディスキルやソーシャルスキルを見つけることで自立と進路を選択する能力を身につけさせる。	3	3	3	・支援が必要な生徒に対しては、特別支援校内会議を適宜開催し、関係機関や医療機関受診に繋げることで適切な配慮を行った。 ・支援が必要な生徒の進路決定について、学年、キャリア教育推進部と連携、協力した。 ・来室生徒が増加しており、学年や教科担当と連携をとり対応していきたい。
農場部	農場経営	GAP（農業生産工程管理）を基礎においた農場運営を行う。GLOBALGAPの認証継続を目指す。	農場管理記録簿を全部門で記入し実習計画に応用する。 作業の安全を第一とし、そのための整理整頓を実施する。 リスクを共有し対処できるようにする。	4	3	4	・農業管理や生産物の在庫管理が整理でき明確になった。 ・圃場に存在するリスクについて気付いた。 ・他校種との学校連携を充実した。
		学科連携・地域連携・学校間連携をより充実させる。	他学科との連携に取り組みその内容を充実させるとともに広報活動を充実させていく。	3		4	
			大学・自治体をはじめ、他校種との学校連携を充実する。	4			
情報企画部	学科経営	「人間性豊かな職業人の育成」を理念とした諸活動を推進する。	生徒の能力を最大限に伸ばすために、学科・地域と連携した取り組みをさらに充実させ、情報企画科の特色と魅力をより明確にする。 時間・あいさつ・身だしなみの規律を定着させ、「主体的に授業に向かう」ことを重点項目として全学年に周知し、教員・生徒が共に徹底して取り組む。	3	3	3	・木津川市内外の地域団体等との連携事業に積極的に参加した。 ・「主体的に授業に向かう姿勢」については、昨年度の評価基準・方法を引き継ぎ、必要に応じて改善しながら取り組んでいる。 ・今後の学校説明会や中学校へのマナー講習会、地域イベントの参加等により、情報企画科の広報活動を強化していきたい。
		商業科の専門性を生かした進路実現を支援する。	専門性を生かした進路実現のため、担任と連携して個別に最適化した指導ができるよう協議する。	3		3	
		専門学科の魅力についてより広く認知されるよう、広報活動の充実を図る。	情報企画科の取り組みを積極的に発信し、地域住民や中学生に学科の魅力をアピールする。生徒が自ら企画運営する中学生へのマナー講習会や、イベントにおける活動、学科説明会などの機会を活かし、学科の取組や魅力を知ってもらう。	3		3	
第一学年部	学校生活	授業規律を守り、授業を大切にする。教育環境を作り、健康で社会性豊かな集団を育成する。	規則やルールを守る等、規範意識の高揚を図る。	3		3	・基本的生活習慣が確立できていない、規則やルールを守るなど規範意識が低い、学習に向かうことができていないなど、さまざまな課題を抱えている生徒がいる中、担任を中心に日々の声かけや保護者との連携により、課題克服に努めることができた。 ・クラス運営や学校行事の取組で、生徒たちはそれぞれの個性を発揮し活躍してくれた。その
			授業を大切にすることで、学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。	3			
			身だしなみや挨拶、時間を守るなど基本的生活習慣の確立を図る。	3			

			保護者と連携し、生徒の成長を図る。	3			中で、新しい人間関係の構築も見られ、集団としての意識の高まりを感じた。このことが部活動にも前向きに繋がり、意欲的に活動する生徒が増えてきて、年度途中から部活動に加入する生徒も見られるなど活気が出てきた。また、進路分野別学習や人権学習などにも意欲的に参加する生徒も多く、学びの環境も整備されてきた。
		部活動および学校行事に積極的に参加する姿勢を養う。	部活動への参加を積極的に推進する。	3	3		
			文化祭や体育祭等の行事において、主体的計画のもと、協力して取り組ませる。	3			
第二学年部	学校生活	規律ある学校生活と基本的な生活習慣を確立し、確かな学力の定着を図る。	規範意識の徹底を図る。	3	3		・欠席や遅刻・早退について、保護者連絡や本人にも話をするが、改善できずに出席不足で単位不認定になる生徒が若干名出てしまった。 ・1学期終了後と2学期終了後に、成績や欠席の状況に応じて、三者面談や四者面談を実施した。場合によって、学期中であっても面談を実施し、家庭と連携して、生徒たちの未来ために、意識改善に努めた。 ・それぞれが輝けるように工夫しながら、生徒たちの自主性を尊重し、各行事について取組を進めた。
			授業を大切に環境づくりと放課後学習会等の実施で、学習習慣と基礎学力の定着を図る。	3			
		進路に対する意識を高め、自ら目標を定める。	日常的な進路指導や、担任・キャリア教育推進部や保護者との連携を図り、定期的に面談を実施し、自らの進路希望の実現と未来を切り開く力を育成する。	3	3	3	
		思いやりの心を育み、人権意識を高め、社会性豊かな集団の育成を図る。	人権学習や平和学習を通して、多様化を理解し、互いの人権を尊重しながら、信頼で結ばれ成長し合う人間関係を作る。安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切に、健康で安全な生活をおくることができるよう、健康安全教育および環境美化教育の充実を図る。	3	3		
			校外学習や研修旅行、体育祭や文化祭など、充実した学校行事の実現に向け、事前・事後学習を計画的に行い、集団のリーダー育成にも取り組む。	3			
第三学年部	学校生活	進路実現と社会性豊かな資質を身につけさせる。	生徒の希望進路実現にむけ、保護者との密接な連携のもと進路指導をすすめる。	4	4	4	・担任の先生が中心となって生徒一人ひとりに寄り添い、キャリア教育推進部と連携して希望進路の実現に向けて計画的に進めることができた。 ・一部の生徒が授業の雰囲気や乱したり、身だしなみ違反や遅刻・欠席が多いという状態になっているが、生徒への声かけを積極的に行い、教科担当と担任が連携するなどし、大部分の生徒は落ち着いて授業に取り組むことができた。 ・クラスで協力し助け合い、校外学習や文化祭などの学校行事に積極的に取り組んでいた。また、儀式的行事の大切さについても理解させ、厳粛で感動的な卒業式を迎えることができた。
			成年年齢の18歳引き下げに伴い、より一層社会の一員としての自覚を持たせるために、身だしなみを整え、相応しい言葉遣いなど礼節が養われるようにする。	3			
			学校行事や人権学習、清掃活動など日常の活動を通して、自他を大切にするコミュニケーションの大切さを自覚させる。	4			

事務 部	施設設備管理 予算管理	安全安心な環境作りと予算の効果的 活用	施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施し、危険箇 所等には、早急に対応する。	3	3	3	・施設担当者、技術担当者を中心に危険箇所等 は早急に対応することが出来た。 ・設置後 13 年が経過している空調機器（32 教 室）を更新することが出来た。 ・ICT 機器の整備について、更新、維持に追わ れた。今後、計画的な動きも検討していく。 ・Classi を利用し事務部から生徒、保護者、教 職員に迅速に情報を伝えることが出来た。 ・事務職員・技術職員とも、それぞれの仕事内 容を共有し、日々仕事を進めているが、さらに 共通理解を深めたい。
			義務的経費の削減（節電、節約）に努め、教育環境の整備、教育活動 の向上のための予算を確保し、学校経営の重点目標達成に向け効果的 に予算を活用する。	3			
			2 学期以降に施工予定の教室等の空調機器更新工事について安全に工 事が進行するよう努める。	3			
	ICT 環境の整	ICT 機器の整備・活用	教育活動その他学校運営に ICT 機器が活用できるよう必要な整備を行 う。	2	3		
			ICT 機器の事務部からの情報（お知らせ）に ICT 機器を活用し、情報 が保護者に迅速に伝わるようにする。	3			
	職員のスキル	適切な会計事務処理と共通理解	職員相互のチェック・確認体制を確立し、適切な会計処理をおこなう。 事務部内でそれぞれの仕事内容を共有し、共通理解を図る。	3	3		
				3			

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
国語科	教科指導	学習規律、学習習慣を確立させる。	取り組むべき課題を自己管理し、期限を守り提出できるよう指導の徹底を図る。	3	3	3 ・課題を提出できない生徒が一定数いる。期限を守るよう粘り強く指導し、今以上に学習習慣が確立できるようにしていきたい。 ・基礎学力定着に向けて、学年統一の漢字テスト（全学年）、漢字テキストの活用（全学年）、小テスト（全学年）、週末課題（特進）、を行っている。教材や過去問を活用し、大学進学に向けての思考力・表現力を向上させていきたい。 ・大学推薦入試や合格者課題などで「小論文」が取り上げられるケースが増えており、今後さらに増加傾向になると考えられる。担任やキャリア教育推進部と連携を図り指導を行ってきたい。 ・漢字検定の受験者、合格者増加に向けて、全クラスへの呼びかけ、問題集の貸出、希望者へのプレテストなどを実施している。 ・教科会議や担当者間での打合せを通して、教材内容や指導方法について交流を図っている。引き続き授業実践の交流や意見交換を活発に行い、情報機器を活用した教科指導力を高めていきたい。
			タブレット教材や板書、プリント内容を工夫し、基礎的な知識の定着を目指す。	3		
		基礎的な知識の定着を図り、国語力の充実を目指す。	毎週の漢字テストや教材ごとの語句調べなどを通して語彙力を高める。	3	3	
			進学補習や「学びの基礎診断」などの取組を強化し進路実現に向けた指導を計画的に行う。	3		
		教材の精選及び教材理解の深化、指導内容や方法の共有化を図る。	小教科担当者間で教材研究を行い、板書計画やプリント、ICT教材作成において担当者間の交流を図る。	3	3	
			「総合的な探究の時間」などの授業で、各教科と連携を図り、国語の力を活用しながら主体的に学習できるよう指導内容を充実させる。	3		

地歴公民科	教科指導	学習習慣の確立を促す。	教科書やタブレット、その他の教材・ノート類を揃えて授業に臨むよう指導を徹底する。	3	3	3	・授業準備ができているということを毎回評価している。そのことで生徒の準備も整ってきた。 ・小テスト、単元テストをタブレットで行い、知識の定着を図った。 ・レポートや発表を取り入れ、定期考査のみの評価ではなく、多様な評価材料を集めることが出来た。
		効果的な学習方法を習得させ、基本的な知識を確実に定着させる。	提出物の状況や授業中の取組状況を平常点として評価に加える。	3	3		
			定期的に小テストを実施したり適切な課題を与えたりする。	3			
			地歴公民科目の効果的な学習方法を指導し、学習内容理解の定着を行う。	3			
		歴史的、社会的な事象に興味・関心を持たせ、自分の意見を持たせる。	レポート課題や発表活動を取り入れた指導を実施する。	3	3		
ICT教材や視聴覚教材（新聞や写真）を効果的に利用し、生徒のタブレットを有効利用させる。	3						
数学科	教科指導	基礎学力の向上を図る。	授業中は、机上に教科書・ノート・問題集を置き、不要物を片付けさせ、身だしなみの点検指導を行うことで、気持ちを授業に向けさせる。	2	3	3	・数学に対する苦手意識から取り組めない生徒が急増していると感じる。やりきらせる指導を徹底したい。 ・全学年でiPadを活用し、毎週途絶えることなく課題配信ができており家庭学習につながられている。未提出が多い生徒への指導を徹底したい。 ・知識・技能のテスト、思考力・判断力のテストとテストを区別することで、学習に取り組みやすい環境を構築できている。 ・特別進学クラスでは、補習の回数を増やし習熟度別に指導を行うことができた。
			重要事項をノートにまとめさせ、生徒が主体的に学習に取り組むように、問題演習の時間を確保する。	3			
		学習習慣の確立と、進学に向けた指導を充実させる。	タブレットで課題を与え家庭学習習慣の確立を図る。	4	4		
			進路実現に向け、補習や補講を充実させる。	3			
理科	教科指導	授業を大切にする教育環境をつくり、基礎・基本を定着させる。	授業開始時に、机上の整理や身だしなみ点検を行うことで授業の準備をさせる。	3	3	3	プリント・ノート提出、問題集およびメタモジの課題、小テスト、実験・実習の取組など、考査以外の評価を充実させた。実験器具の購入も含め、実験がより多くできる環境を整備したため、新たな実験を実施できた。授業スライドの投影、生徒タブレット端末の利用など、ICTの活用も充実させたが、授業中に端末で遊ぶ生徒もおり課題はある。
		理科教育の充実を図る。	提出物を十分に設定し、チェックする。それにより考査以外での評価を充実させる。 新しくなった北校舎の設備を生かし、新しい実験を試したり、教員間で共有する。また、予備実験の時間を短縮することでより多くの実験を実施できるようにする。	4	3		
			ICT等の活用を模索して、学習面で取り残される生徒がないよう、教材の工夫を図る。	3	3		

保健 体育科	教科指導	豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	安全に留意しながら、体力の向上を目指すとともに運動の特性に応じた楽しさを感じさせる。	3	3	3	・ 毎時、ランニング 600m、馬跳び 10 回程度のトレーニング実施で体力向上を目指した。 ・ I C T を利用し、撮影した動きを客観的に見ることで技能の向上や運動の楽しさを感じさせることができた。 ・ 新体力テストの結果を振り返り今後の運動習慣について考えさせることができた。 ・ 講座全体での指示、種目担当での指示を適宜に行い、安全に授業が行うことができた。
		健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。	新体力テストのフィードバックを行い、今後の運動習慣について自ら考え行動できるように指導する。	3	3		
		規律ある集団行動の実践と、協調性を持った生徒を育成する。	毎時間、講座全体集合を行い、健康や安全に留意して授業が行えるように努める。	3	3		
		探究コースでは、スポーツにおける課題解決に向け、実践力や企画力を育てる。	健康を科学的に学びながら、さまざまなスポーツを体験学習することで、生涯にわたりスポーツに親しむ資質を養う。	3	3	3	・ 城山台小学校支援級の児童とパラスポーツ交流を行い、スポーツの楽しさ、可能性を体験させることができた。
芸術科	教科指導	基本的な学習習慣の確立	授業規律を明確にして指導し、授業態度に問題ある生徒に対して個別に注意を促す。特に理由のない遅刻・欠席や未提出・不参加・取組不足の生徒には強く指導する。	3	3	3	・ 年度当初のガイダンスにおいて授業の進め方や評価の観点を明確に生徒に説明して、授業規律を徹底させた。そして取り組みが不十分な生徒に対して個別指導した。また遅刻早退や欠席に対しても同様に指導した。 ・ 生徒が興味関心を持ちやすい教材を精選して実習鑑賞探究に取り組ませた。
			課題や作品の提出や発表の期限及び各種届の提出を厳守させる。	3			
		学習活動の充実	意欲的に実習に取り組み生涯において芸術が愛好できるように教材を精選し、興味関心をより強く持たせることにより学習活動を充実させる。	3	3		
英語科	教科指導	様々な学習活動を通して生徒の英語学習へのモチベーションを高め、積極的な発話につなげる。	普段の授業での教授法や活動を工夫し、積極的に英語でコミュニケーションをとろうとする態度を育成する。また、検定試験の受検、スピーチコンテストへの参加等、様々な取り組みを通して、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。	3	3	3	・ 例年通り、実用英語検定試験、全商英語検定試験に向けての対策に取り組んだ。また、全商スピーチコンテストには 1 年 4 人、2 年 1 人が出場し、レシテーションの部で 3 位入賞する等、日頃の練習の成果を発揮した。 ・ 授業での小テスト、週末や長期休業中の課題を通して、語彙力強化と文法知識の定着に努めている。 ・ GTEC については 2 年特進クラスが 12 月、1 年特進クラスが 2 月に実施予定である。
		多様な進路に対応できる語彙力と文法知識の定着と向上を図る。	定期的な課題や、授業内での単語テスト等を行うことで語彙力と文法知識の定着を図る。また、計画的で効果的な補習を実施し、基礎学力の向上を図るとともに、発展的な学力の素地を養う。	3	2		
			さらに、大学入学共通テストや様々な形態の入試を視野に入れ、特進エリア 1 年生と 2 年生に G T E C 受験を必須にするなど、時代に応じた英語指導体制を模索する。	2			

家庭科	教科指導	学習規律を確保し、学習習慣を定着させる。	始業時に学習に向かう姿勢を整えさせる。特に実習では安全に取り組めるよう規律を守るよう指導する。	3	3	3	・特に実習では、規律を守ることが重視している。教室で被服実習をしているので、針の管理について徹底して行った。
		自分の生活を見つめ、改善すべき点を把握させる。	授業毎にワークシートやレポートを提出させ点検を行う。評価をつけて返却することで改善点を明確にする。	3	3		・ワークシートは毎授業で回収し、評価を明確にして返却している。不備のあった箇所は自主的に改善して再提出する生徒が増えてきた。
		将来に生かせる知識、技術を習得させる。	各領域において、問題意識を持たせながら授業を展開し、知識・技能を生かせる場面を提示する。	3	3		・生徒が関心を持てる題材を設定し、自分自身の生活に生かせるよう努めている。夏季課題を課し、食生活を見直す機会を設定できた。
情報科	教科指導	情報に対する正しい理解と、情報を的確に処理し、問題解決できる能力を習得させる。	問題をモデル化し、様々な方法で解決させるよう指導する。	2	2	3	・問題をモデル化することに関して、方法は身についているがまだモデル化をできるという段階までできていないので、その手法について身につけさせる必要がある。 ・PC 機器の扱いや整理整頓については、教員側の声掛けもあって以前よりも目標達成ができてきている。例年情報科が課題としていた提出課題についても、良くなってきている。
		授業の規律とルールを重んじ、情報社会におけるモラルと関連づけて指導を行う。	実習時、上履きの整理整頓の点検を行う。	4	3		
			「授業を大切にしよう」の声かけを行うとともに、PC 機器の適切な取扱について指導する。	3			
			提出物の期限内提出の指導を行う。	3			
農業科	教科指導	地域・大学等と連携した取組を行い応用力の向上を図る。	地元と連携し地域環境の整備と保全活動に取り組む。	3	4	4	・大学の教員による体験授業を実施した。 ・地域の環境整備と保存活動に取り組んだ。 ・他校種との連携を充実した。 ・複数の資格取得を目指す生徒が増加した。
			大学や専門機関と連携をした学習を展開する。	4			
		資格取得の取組を活かし学力向上を図る。	農業技術検定、危険物取扱者資格、情報処理検定を複数取得させ生徒に専門力をつけさせる。	4	4		
商業科	教科指導	授業規律を重んじ、主体的な学習姿勢を身につける。	授業規律、主体的な学びの姿勢を定着させるため、各授業において主体的に学習に取り組む態度について習慣化させる。	3	3	3	・身だしなみをはじめ、教科として授業規律を重んじる姿勢を身に付ける。同時に、形式のみをその場限りに整えることが習慣化しないよう指導方法に留意する。 ・進路実現への準備として、1・2 学年に対しては特に資格取得を奨励する。全員受験に該当する検定では全員に放課後補習を課し、目標達成に向けた取り組みを行っている。
		商業科の専門性を生かした進路実現のため、資格取得の実績や研究活動の成果をしっかりと自覚する。	生徒が資格取得の実績を残せるよう、授業や補習によって十分にバックアップする。研究活動の成果について生徒自身が自覚できるよう、研究ノートの蓄積と発表会に向けた指導を工夫する。	3	3		

学校関係者評価委員会 による評価	①卒業式は今まで参加した中で、一番良い式であった。特に、生徒の表情が誇らしげで、校歌もしっかりと歌っていた。会場全体に包み込むような雰囲気があり、日常の教育活動の成果を感じた。 ②多様な生徒に対して、きめ細かな指導を積み重ねている。特に社会的なマナーの指導をしっかりと行っている。今後も学力向上の面を含めて、日々の教育活動を継続してほしい。 ③学校を取り巻く環境は、学校で変えられるものではない。しかし、地域社会の状況が大きく変化する中でも、温かく丁寧な教育活動を続けることで、地域からの注目も高まり、もっと素晴らしい学校に成長すると思う。
-----------------------------	---

次年度に向けた改善の 方向性	①学校経営方針（中期経営目標）を達成するために、教育振興プランや短期経営計画に則ったかたちで、個々の教職員が自己の果たすべき役割を自覚し、研鑽を積む。 ②分掌部長を中心とした組織体制を強化するとともに、分掌相互の連携を深めることで、全教職員が共通認識をもちながら学校運営に参画する体制を目指す。 ③大学入学共通テストを受験して、国立大学に合格する生徒を輩出できた。この流れを大切にしながら、進路指導の充実を図りたい。 ④保護者や地域等との連携をさらに強化し、スクールミッション、スクールポリシーに基づいた教育を目指すことにより、地域から愛される学校を目指す。また、創立１２５周年（令和８年度）に向け、広報活動の強化と学校の活性化を図る。
---------------------------	--